



J・A・C
(第24号)

千葉支部だより

発行者 諏訪吉春
編集者 吉野聡

「絆と心で全員が登頂」 支部初の海外遠征「台湾・雪山」



2013年7月9日の朝6時35分、快晴。気温4度。台湾北部の苗栗県と台中県の県境にある雪山(シユエシャン)。標高3886メートルの頂上に、メンバー11人全員が立った。高低差のある胸を突くような上り坂も「頑張ろう！」と励まし合い、振り向けば青空の下に歩いてきた一本の長い道が延びていた。こうして、私たち日本山岳会千葉支部が実施した支部発足最初の海外遠征登山は成功裏に終えた。

(三木雄三)

雪山遠征隊の構成 ▶総隊長・吉永英明 ▶隊長・岩尾富士夫 ▶副隊長・山口文嗣
▶秘書長・三木雄三 ▶副秘書長・高橋琢子 ▶会計・小澤けい子 ▶隊員・諏訪吉春、渡邊信一、山崎完治、湯下正子、柳川しげよ。(敬称略)

「来年も台湾の山に・・・」と交流

雪山山脈は台湾を南北に走る全長約260キロの山脈で、雪山は雪山山脈の最高峰であり、台湾全土でも玉山山脈の玉山(3952メートル)に次いで高い標高を誇る。山登りは、どんな山に登ろうが、どんな登り方をしようが個人の自由だが、今回は「参加出来なかった仲間のためにも、全員無事で頂上を踏もう」と結束を誓い合い、こうして今、振り返ると、つらく苦しい登りも励ましあい、文字通り絆と心で歩き通すことができた5泊6日の山旅だった。

中華民国山岳協会とのレセプションでは、雪山遠征隊の総隊長を務めた吉永英明さんが「台湾の山岳協会と日本山岳会との交流の歴史は長い。日本の山へ来たときには、ぜひ千葉にも立ち寄って下さい」と話すと、私たちがサポートしてくれた中華民国山岳協会の何中達(カ・チュウタ)会長も「皆さん全員そろって雪山に登ることが出来おめでとうございます。」

来年はぜひ、玉山に登って下さい」と笑顔を見せ、乾杯した。



帰国の日、遠征隊の参加者たちからは「この遠征で終わりにしたくない。できたら来年も来てみたい」「富士山より高い山に登れて自信がついた。次は玉山に挑戦したい」の声がかかれた。

雪山遠征隊の主な行動

—7月7日 黒田正雄さんの見送りで成田空港を出発。午後1時、台湾の桃園空港に着くと、これから遠征隊がお世話になる中華民国山岳協会監事の林哲全さんの出迎えを受ける。専用バスは台北の中心部を走り抜け、午後7時、ようやく雪山登山口の武陵山荘に着いた。途中、河岸段丘のはっきりした河川敷で、スイカを栽培している光景を見た。濁流が流れたら、ひとたまりもないだろうな、と思った。山荘は青少年のための宿泊施設のような感じで、アルコール類は一切置いていなかった。遠征隊のメンバーの顔付は、ちょっぴり不満そう。

—8日 きょうは雪山東峰(3201メートル)を越えて三六九山荘までのコース。武陵山荘からの高度差は約1400メートル。バイキングの朝食を済ませて午前8時に出発。かつて原住民の狩猟の場であり、日本の統治時代に登山コースが整備されたというチカ山荘には10時

に着いた。赤松の巨木が目立つ。リンドウ、ナデシコの花を楽しみながら高度を稼ぐ。尾根に出ると風が出て空が暗くなり、雷鳴が聞こえはじめた。東峰を目の前にしながら、危険回避のため分岐を3100メートル地点に建つ三六九山荘へと急ぎ、午後2時40分に着いた。山荘とは言っても寝袋や食事持参の避難小屋。まわりの山が霧に包まれて、何も見えなくなった。午後5時に夕食。登山口から荷を担ぎあげてくれた現地のコックが調理してくれた。そのコックの彼だが、ガムか何かを噛んでおり、歯も口のまわりも紅のように赤く染まっている。

—9日 いよいよ雪山へ登る日が来た。高度差は約700メートル。真夜中の午前2時、山荘の外に出ると、好天を約束するかのように天の川が白く光っていた。「W」形をしたカシオペアは確認出来たが、宝石を散りばめたような星くずの多さと、星空の知識の乏しさに、ほかの星座は何一つ識別できずのまま。雪山の山頂

を踏み、チカ山荘まで一気に戻るきょうのコースは約20キロと長丁場。そのため出発は未明の3時と決まった。途中で5分間ずつの休憩を入れながらヘッドランプの灯りを頼りに歩く。標高3500メートル付近。ツガの純林にオレンジ色の光が差し込むと、水平に広がった。今まで見えなかった山の輪郭が少しずつはっきりしてくる。それにしても森林限界が高い。この標高にツガの林があるとは、実に興味深い。「黒い森」を抜けると岩塊斜面になり、カールの底に到着した。氷河が山の斜面を削り取った副産物のモレーンもある。南アルプスの仙丈ヶ岳を彷彿させる姿だが、それにしても大きなカールだ。



ここから先は岩尾根。「呼吸が乱れる」と誰かが言った。そろそろ富士山の標高3776メートルを過ぎただろう。植物が強風に耐えるかのように地を這っている。トラバースしてひと登り。真っ青な空の下、「雪山主峰」の石碑があった。興奮のためか、寒さは感じない。雪山北峰(3703メートル)、品田山(3524メートル)、池有山(3303メートル)、そして武陵山荘の上にそびえていた桃山(3325メートル)などなど、雪山につながる3000メートルの巨人たちが見渡せ

た。360度の展望を満喫し、午前7時に下山を開始した。登りでは暗くてわからなかった「玉山バラ」「玉山カシワ」「高山クヌギ」などの花や樹木に目を奪われる。8日は行けなかった雪山東峰のピークを踏み、チカ山荘へ下りたのは午後1時40分。下る途中、何度も「声を出せ」「元気を出せ」の檄が飛ぶ。けがもなく、全員が登頂し、こうして下りてこられた事は、とても良かった。

—10日 山にお別れの日、どこかさみしい。ゆっくり寝ている気分にもなれず、午前5時ごろから小屋のまわりを歩いていると、ガサガサと枝が揺れて、2匹、3匹とサルが現れた。このあたりは野生動物保護区になっているのだと知った。

—11日 台風が接近しているニュースがテレビに流れた。「あすの夜らしい。帰国の日だな。飛行機は飛ぶかな」。そんなことを気にしながら、きょうは観光見物。林さんの案内で蒋介石をたたえる「中正記念堂」や古い町並みが残る「キウフン」の町、508メートルと、ビルの高さとしては東洋一を誇る「台北101」などを見て回った。仏教寺院「龍山寺」は、たくさんの女性たちが歌うようにお経を唱えていた。夜は中華民国山岳協会とのレセプション。隊長の岩尾さんが「天の川に流れ星を見て、良い前触れだと感じたら、全員が無事に登頂できた。台湾の皆さんのご協力に感謝します」と述べ、副隊長の山口さんが「来年も台湾の山に来られますように」と乾杯した。

—12日 ホテルから歩ける距離にある中華民国山岳協会の事務所へ表敬訪問。記念のバッジをいただき空港へと向かう。

雪山一言コメント

▼ 風情、ふれあい、感動 岩尾富士夫
「観光にはない風情、ふれあい、感動があった。雪山で得られたものが、次の山に引き継がれる事を期待します。四六九山荘の流れ星が全員を頂上へと導いてくれた。」

▼ 登れたことに大満足 小澤けい子
「自分の足で富士山より高い山に登った。登れるかと、ものすごく心配だったが、隊長や仲間のリードのもとに登れたことに大満足です」

▼ 一心不乱の信者 諏訪吉春
「龍山寺邂逅 数多の信者が一心不乱に經典を読む龍山寺。僧侶に突然腕をつかまれ、御神籤をひかされ写真をとられた。金もとらず、笑って別れた」

▼ 清々しく感動的 高橋琢子
「未知の世界への挑戦は、苦しかったが、花に助けられ、星に癒され、仲間に励まされての登頂は、清々しく感動的だった」



▼ 美しい響きの雪山 三木雄三
「シユエシャン、なんと美しい響きだ。その真価は谷を覆う台湾冷松の純林と広大なカールだろう。『また来るよ』と私は叫んだ」

▼ きつかった登頂への道 柳川しげよ
「餃子は一番。スイカは二番。美味しかった。雪山登頂への道は、私にはとてもきつかった。チカ山荘の夜のトイレは、怖かった」

▼ コックさんに感謝 山口文嗣
「標高3500m付近まで豊かな黒檜の森林に覆われながら、突然のカール地形となり続いている地形。重い食材を担ぎ上げ、洗面器みたいなボールで美味しい料理を作ってくれたコックさんに感謝」

▼ 北斗七星に感激 山崎完治
「雪山のパノラマ展望に、北島康介の『チョー気持ちいい』を実感し、山荘から眺めた天の川や北斗七星に感激しました」

▼ 初めての海外山行 湯下正子
「初めての海外山行で眺望の素晴らしさに感激。実力の異なる隊員をまとめた隊長さんに感謝です」

▼ すべて満足。来年も 吉永英明
「とにかく楽しい旅だった。雪山登山はもちろん食事、観光、天候すべて満足。来年もと思うと、また気合が入る」

▼ 雪山の森遥かなり 渡邊信一
「①万緑の雪山の森遥かなり
②雪山や煌めく夜空に天の川
③雪山のモレーンに響く雲雀かな」

千葉支部の活性化を

日本山岳会千葉支部長 諏訪吉春

千葉支部長に就任して、支部長会議、25年度通常総会と連続して参加しましたが、尾上前会長、森新会長とも支部の活性化を強調されていたことを強く感じました。私も、支部が活性化することにより、会員一人一人の主体的な活動が活発となり、周囲からも注目されることにより、会員数の増強と同時に質の高い活動を目指すことが出来るのではないかと考えています。

そこで、新・旧会長の述べられたことを踏まえ、千葉支部で次の事項に取り組んでまいりたいと思います。

- ① 支部に「止まり木」としての同好会を作り、多くの会員の方が参加出来るような支部を作りたいと考えております。その手始めに、以前に2度ほど上高地で実施しました山岳のスケッチとカメラの趣味の方を中心に、アルパインスケッチクラブなる同好会を考えております。
- ② 支部山行の定例的な数多くの実施を行う。サテライトの各地区で山行計画をして、「この指、とまれ方式」の気軽な山行を実施するようにする。
- ③ 公益法人としての対外活動として、今後は千葉岳連を含めた交流会を積極的に推し進める。出来れば合同の登山講習会の実施を考えております。
- ④ 会員数を増加させ、財政を安定かつ強固にし、最終的には千葉支部のルームを持つ為の、特別積立金を計画して行きたいと考えております。

以上、これからの千葉支部としての将来の方向性を示しましたが、それには会員・会友一人一人のお力添えが必要です。今後も、千葉支部は会員・会友全員の総力結集で頑張りましょう。よろしくお願い申し上げます。

赤城山 300名山取材山行



期 日 2013年6月8日(土)

参加者 > 三木雄三、大浦陽子、小澤けい子、高橋琢子、湯下正子、諏訪吉春、豊倉さと子、山崎完治、鈴木美代、高橋正彦、小板橋志朗、宇津木仁典、山口文嗣。(敬称略)

小型バスを借りての山行となる。津田沼駅7時30分集合、現地、黒檜山登山口駐車場には10時45分頃到着。準備をして出発。しばらく林道を進むと、右側に黒檜山登山道が入ってくる。出だしはチョッと滑りやすいが、よく踏まれた道である。11時16分頃、猫岩到着。なぜ猫岩なのか判然としない。下のどこから見ると猫に見えるんじゃないの、と無責任な感想を述べて先へ進む。登山道からは大沼が良く見え、気持のいい道である。ヤマツツジからシロヤシオ、ミツバツツジと、上るに従って植生が変わるのも面白い。

黒檜山到着は12時40分。広々とした山頂である。そのまま進むと展望が開け、絶好のビューポイントとなる。

昼食、休憩、写真撮影と、思い思いに時を過ごし、13時15分ごろ 駒ヶ岳に向け出発。多少のアップダウンはあるが、千葉の山のジエツ

トコースターロードに比べれば緩やかだ。行く手に小沼も望まれる。



14時 駒ヶ岳到着。少し休んで、大沼に向けて一気に下る。人が多い。15時 大沼到着。バスが待っていてくれた。運転手さんはさぞ退屈だったことだろう。ご苦労様でした。しかし、我々は気持のいい一日だった。(鈴木美代)

『しらせ』 見学とビールパーティー



期 日 2013年8月10日(土)

参加者 >小澤けい子、黒田正雄、小疇尚、香高真奈美、櫻田直克、篠崎仁、鈴木美代、諏訪吉春、高橋正彦、竹島正義、田代貴征、田代治子、土屋満、豊倉さと子、三木雄三、柳下忠義、山口文嗣、山崎完治、結城純一、谷内剛。(敬称略)

今回は第6次観測に参加した明治大学名誉教授、小疇会員の取り計らいで船橋市の京葉食品コンビナートに接岸してある砕氷船「しらせ」を見学した。

初代「しらせ」は、タロー、ジローの記憶が蘇る「宗谷」、さらに「ふじ」に次ぐ三代目の南極観測船。2008年に退役するまで、25年にわたり活躍した。退役後は自衛隊の艦船としては珍しく解体を免れ、民間の気象情報会社「ウェザーニューズ」に譲渡され、現在は南極観測の歴史や意義などを紹介している。

50度にもなるという艦内の見学は2時間。汗だくになりながらヘリコプター格納庫や操舵室などのほか、厨房に置かれた「モヤシ栽培器」、乗組員が長い航海の気晴らしに焼肉を

焼いたという船内の狭い一角…も、特別に見ることができた。



見学の後は電車とバスで移動。「しらせ」での酷暑がウソのよう。ロッテ戦でにぎわうスタジアムに近いホテルの49階で夜景を楽しみながら涼しく懇談した。(三木雄三)

筑波山へ晴香園の子どもたちと

期 日 2013年6月30日(日)

参加者 >晴香園 生徒7名 職員2名

小澤けい子、黒田正雄、小坂橋志朗、小坂橋紀子、篠崎仁、田代貴征、田代治子、豊倉さと子、柳下忠義、山崎完治、結城純一、熊谷侑子、湯下正子、渡邊信一、渡邊すみ子。(敬称 略)

梅雨がまだ明けない6月30日、公益活動の一環として、松戸市にある「晴香園」の子どもたちにも馴染みある筑波山へ行きました。第1回目の高尾山登山後、晴香園の中に「マウンテンクラブ」が誕生しました。

今回はマウンテンクラブのメンバーを中心に小学生5名、中学生2名の7名が参加。職員は2名。千葉支部から15名、総勢24名での登山となりました。

つくばエクスプレスの終点からバスに乗り筑波神社境内へ。いよいよ御幸ヶ原コースで登

山開始。途中で上下のケーブルカーが行き違う場所で一休み。丁度ケーブルカーの擦れ違いが見られラッキーでした。

ここから後半の登り、やっぱり子どもたちのパワーは凄い。バテ気味の大人よりも、皆元気に御幸ヶ原まで登りました。御幸ヶ原で昼食タイム。準備が終了する迄の間に荷物を置いて男体山(870メートル)頂上までひと登り。

昼食後、女体山(877メートル)頂上へ。景色を眺めてからつつじヶ丘コースで下山しました。(豊倉さと子)



「筑波山感想」

実紅(小学4年生)

山は登ったりするのがとても楽しかったです。のぼり坂、きゅう坂がきつかったけど、ちょうじょうまでいけて、うれしかったです。のぼるとき、いろいろ教えてくれてありがとうございました。山のぼり、こんどはちがうところであえるのを、たのしみにしています。山登りは、ほんとうにたのしかったです。また、いっしょに山登りにいきたいです。本当にありがとうございました。



「筑波山に登った感想」

一秀(中学2年生)

ぼくは、30日に筑波山に登る前に、神社に行っておねがいをしてから登った。最初はそんなにキツクなかったが、どんどん上に行くにつれてキツイと思った。おかしなどいっぱい食べたらとても元気になってどんどん登れた。ケーブルカーを見たら、また元気が出てがんばった。いろんな岩をみた。カエルの岩の口に石を入れたりして、とてもたのしく登れた。距離的に、高尾山よりも長かったが、やりがいがありよかった。山岳会の人たちと登りとても楽しかったし、あっという間に登り終わった。終わってみてわかったことは、高尾山はあんまりキツクなかった。それに比べて筑波山はきつかったことだ。筑波山よりも金時山の方がキツイと聞いたので、部活などできたえて、金時山では楽に登れるようにがんばって行くので、楽しみにまっています。また、9月にあいましょう。

山 行 へ の ご 案 内

日本300名山「榛名・荒船山」へのお誘い

300名山も4回目になりました。

日本300名山取材の一環として、榛名・荒船山の山行計画を立てました。

紅葉を楽しみながら、佐久地方の名湯初谷温泉(しょやおんせん)に泊まりながら秋の夜長を美味しいお酒やおしゃべりで楽しんでみませんか。 募集人数: 20人

日程:10月26日(土)～10月27日(日)

行程:10月26日 津田沼7:00発～11:00 榛名湖(榛名富士)～榛名湖 15:00～17:00

初谷温泉(泊)

10月27日 初谷温泉 8:00～8:30 荒船不動～(荒船山登山)～13:30 下山口(相沢)～

14:00/15:00 荒船の湯～19:30 津田沼

宿泊:初谷温泉 Tel 0267-65-2221

申し込みは 10月5日(土)までに小澤けい子まで。

「大菩薩嶺」へのお誘い

大菩薩嶺は日本百名山に入っていることもあり、訪れる登山者は多い。中央線の塩山が玄関口で、大菩薩峠や丸川峠を経て登るルートがよく知られている。近年、甲斐大和から上日川峠までバスが入り、いっそう便利になった。

しかし、この南面のにぎわいに比べ、北面は交通不便なこともあってまことに静かなものである。昭文社の山地図を見ても、登山道の記載されていない空白の山域なのである。

日程 11月9日(土)～10日(日)、

1日目:丹波(山梨県丹波山村)から丹波大菩薩道を歩き大菩薩峠へ(介山荘泊)

2日目:大菩薩峠から大菩薩嶺に登り北尾根(踏み跡程度)を下降し三条新橋(青梅街道)へ出る
詳細は、参加希望者へ担当から別途お知らせします。申し込み前の問い合わせも可。

申し込みは 10月15日(月)まで。

担当(L) 黒田正雄

300名山「丹沢・塔ノ岳」取材山行へのお誘い

山と溪谷社が発刊予定の、日本300名山の取材山行を丹沢・塔ノ岳を中心に行います。山岳信仰の対象として、それらを意味する地名が山につけられている、由緒深いところです。今回は大山から連なる表尾根を登り、塔ノ岳から大倉尾根と鍋割山陵を下ります。今年を締める忘年山行を兼ねます。尊仏山荘で懇親を深めましょう。

12月14日(土) 小田急・秦野—~~車~~—ヤビツ峠—塔ノ岳 尊仏山荘泊

15日(日) ①塔ノ岳—金冷シ—大倉尾根—大倉—~~車~~—渋沢

②塔ノ岳—金冷シ—鍋割山—二俣—~~車~~

下山は大倉尾根と鍋割山の2ルート、大倉で合流する。

募集人員:20名 申し込み:11月25日まで

交 通:千葉6:38特急あずさ3号—新宿7:27—小田急7:41—秦野8:51

秦野8:55—~~車~~—ヤビツ峠

*新宿で小田急に乗換時、切符購入なので手間がかかると、

7:41の乗換が難しくなります。

小田急もスイカが利用できるのでご利用ください。

担 当:岩尾富士夫

10月以降の行事予定

行先	日程	締切	担当	備考
佐原大祭	10/12(土)	10/5(土)	三木雄三	四水会企画
榛名・荒船山	10/26(土) 27(日)	10/5(土)	小澤けい子	300名山取材
大菩薩嶺	11/9(土) 10(日)	10/15(月)	黒田正雄	支部山行
奥多摩 高水山	11/17(日)	10/20(日)	豊倉さと子	公益事業 「晴香園」
イベント分水 嶺 館山 大山	11/23(土)	11/15(金)	三木雄三	公益事業
丹沢・塔ノ岳	12/14(土) 15(日)	11/25(月)	岩尾富士夫	300名山取材 忘年山行
冬の手賀沼	1/18(土)	12/20(金)	湯下正子	

サテライトからの報告とご案内

茂原の七夕を見学 四水会

千葉市以東の会員・会友でつくる「四水会」(結城純一、津田麗子代表幹事)が、59回目を数える茂原の七夕祭りを見学した。

同市在住の吉野さんが呼びかけた。企業城下町として発展した茂原市の七夕は、平塚、仙台と並ぶ豪華なもので、テント村の特設会場には富士山の世界文化遺産登録を祝い、富士吉田商工会議所も店を出した。

商店街の目抜き通りには工夫を凝らした七夕飾りが並び、「ワーツ、きれい」と暑さも忘れて見入ったり、カメラのシャッターを押していた。

夕方からは大衆割烹「網元」で懇親会。代表監事の結城さんが「今回は千葉から茂原に会場を移しました。暑い中、参加してくれてありがとうございます」とあいさつ。新鮮な刺身、味自慢の房

総パーク C を前に、地元を代表して吉野さんが乾杯の音頭を取った。

諏訪支部長のほか、常磐線グループからも黒田さんや豊倉さん、小澤さん、新会員の田代さん夫婦も参加。夜更けまで盛り上がった。

(三木 雄三)



佐原大祭 四水会

秩父、川越と並ぶ関東三大「山車(だし)祭り」の一つ、佐原の秋の大祭のお誘い。哀愁を帯びた無形文化財「佐原ばやし」の音色を耳に、江戸時代に作られた豪華な山車、娘たちの粋な手踊りを見に行きませんか。

利根川の水運で栄えた時代から、「メンの大盛り」で知られた地元の食堂『桶松』での昼食、アルコール付きです。日程は10月12日。JR 千葉駅午前10時発エアポート成田に乗車、成田乗り換え佐原駅下車。 昼食の予算は5千円。 問合せ 三木

冬の手賀沼歩きのご案内

新年1月。冬の手賀沼は渡り鳥がたくさんいます。空気が澄んでいれば、富士山も見えます。体力づくりを兼ねて手賀沼をぶらりと歩いてみませんか。そんな企画を提案してみました。

コースは次の通りです。JR 我孫子駅南口へ午前9時30分に集合→杉村楚人冠邸→白樺記念館・志賀直哉邸跡→白樺派の記念碑→手賀沼公園→船戸の森→武者小路実篤邸跡→北柏ふるさと公園→北千葉導水ビクターセンター→ヒドリ橋→しょうなん道の駅・満天の湯→我孫子駅近くで反省会→我孫子駅解散。 以上が遊歩道半周コース案です。歩行距離は10キロで2時間。見学が2時間、休憩時間を含み合計4時間。その後、「満天の湯」で汗を流してから我孫子駅まで徒歩30分です。そして反省会です。 日程は1月 18 日(土)です。参加ご希望の方は、湯下正子宛てに12月20日(金)までお申し込みください

こんにちは

新入会員のコーナー

田代 貴征



「行きたい山、行きたいルート」の数が「登った山、歩いたルート」の何十倍もあります。
「知らない山、知らないルート」も併せれば 何百倍・何千倍にもなってしまふんだらうと思います。
8年ほど前に、職場の仲間と富士山に登ろうということになり「それじゃあ」と……………
昭和55年 富士山で大規模な落石事故が起こってしまった夏、御殿場口7合目<日の出館>でアルバイトをしていました。

(富士山を案内してやろう)ちょっと上から目線で行った富士山でしたが、逆に日頃の自分の不摂生・体力の無さ・増えてしまった体重を嫌というほど味わってしまう羽目になりました。(自分にガッカリ)

悔しくて、山に行くようになり 下りてくると次はどこに行こうか考えているようになりました。

ちょうどその頃、豊倉さんから会友に誘っていただき、大変時間がかかってしまいましたが(すみませんでした)今年度 日本山岳会の会員番号を戴くことになりました。

一緒に山に行っていた 職場の仲間は移動や転職でバラバラになってしまい、最近は単独行がほとんどでした。これからは支部の山行に出来る限り参加させていただきたいと思います。(休みが合うかちょっと心配)

今年参加させていただいた冬山(2回)本当に楽しかったです。「行きたい山、行きたいルート」が「登った山、歩いたルート」に一つ登録されました。次のシーズンも冬山計画をして頂ければと、楽しみにしています。高い山、低い山、いろいろ取り混ぜてこれからも宜しく願いいたします。

役員会の報告

6月報告

6月25日(火) 6時30分～

於 市川市 アイリンク

出席者 岩尾、小澤、黒田、小板橋、坂上、篠崎、諏訪、大悟法、豊倉、三木、谷内、山口、山崎、結城、湯下、吉野
(以上 16名、敬称略 五十音順
今後 各会同様)

1 報告

- ・本部総会(6月15日)について
事業報告、決算の承認、事業計画、予算の提示
会長森武昭氏、副会長節田重節氏、黒川慧氏、吉野淳氏
新理事に弁護士、公認会計士を配置しガバナンス、コンプライアンスに配慮
全国で10支部の支部長が交代

- ・6月山行報告 赤城山(6月8日)

2 事業予定

- ・公益事業 晴香園児童引率登山 筑波山
6月30日(日)
- ・海外山行 台湾 雪山 7月7日(日)～
12日(金)

7月報告

日時 7月30日(火) 6時30分～

於 市川市 アイリンク

出席者 岩尾、小澤、黒田、坂上、鈴木、諏訪、大悟法、豊倉、三木、谷内、山口、山崎、結城、湯下、吉野、渡邊
(以上 16名)

1 報告

- ・海外山行 台湾:雪山(7月7日～12日)
11名で遠征 全員無事登頂、台湾山岳会を表敬訪問する等、成功裏に終了
岩尾遠征隊長報告
- ・自然保護全国集會 富山(7月6日～7日)
鈴木委員報告

- ・入会金の一部を支部に還元
支部活性化に向けた方策のひとつ

2 事業予定

- ・山行計画 諏訪山、金時山、荒船山
榛名山、塔ノ岳等
- ・房総半島分水嶺踏査記念誌発行を目指しプロジェクトチームを結成
- ・支部行事等の情報を迅速に周知するため
メールリンク等の活用の検討

8月報告

8月27日(火) 6時30分～

於 市川市 アイリンク

出席者 岩尾、小澤、黒田、篠崎、鈴木、諏訪、豊倉、三木、山崎、山口、結城、湯下、吉野
(以上 13名)

1 報告

- ①南極砕氷船「しらせ」とビールパーティ
8月10日
- ②市川・船橋地区サテライトを定期開催

2 行事予定等

- ①300名山:諏訪山取材山行
9月14日～15日 参加者数 11名
- ②「ヒマラヤ変わりゆく景観」写真展の協力
会期 9月17日(火)～19日(木)
会場 きぼーる
千葉市中央区中央4丁目

3 協議事項

- ① 自然保護委員会を立上げ
委員長鈴木美代
- ② 房総半島分水嶺踏査委員会を立上げ
委員長山口文嗣
- ③ 会員・会友の獲得をめざし活動の強化
サテライトを中心に地道な活動を

房総半島分水嶺の完全踏査を記念して

日本山岳会千葉支部では、公益目的事業として平成21年10月から房総半島分水嶺の踏査を進め、3年半をかけ、この間29回、延べ314名の参加のもと、25年3月16日無事完了しました。房総半島分水嶺は、長生郡長柄町六地蔵から館山市洲崎まで約110キロメートル、房総半島の背骨として雨の流れを太平洋と東京湾に分けています。

低山でありながら、一步やぶに踏み込むと、目標となるものは何も無く、GPS を使っても探索の難しい道なき道を慎重に探りながら一步一步進む日も続きました。

このたびは、完全踏破を記念して次の事業を計画しますので皆様のご協力をお願いいたします。

1 房総半島分水嶺記録出版プロジェクト

29回の記録と参加者の感想もまとめ1冊の記録集として出版する。

参加者を中心にプロジェクトを構成し、来年5月までの完成を目指す。

房総半島分水嶺踏査記念誌委員会を設置。

山口文嗣(委員長) 岩尾富士夫(副委員長) 三木雄三(事務局長) 結城純一、吉野聡

2 一口コメントの募集

分水嶺記念誌作成に当たり、踏査の様様をより具体的に再現していくため、参加者の皆さんの体験談や感想を募集します。

300字程度の一口コメントとして1月末を目途に三木宛てにお送りください。



分水嶺最終到達地点
館山 洲崎海岸にて

3 イベント分水嶺

分水嶺踏査の完了を記念し、県民に呼びかけて分水嶺の山行を計画します。会員・会友の参加をお願いいたします。

分水嶺山行 11月23日(土) 館山市 大山

23日夜の宿泊希望者は11月15日(金)までに三木まで 先着15名
宿泊先 館山市洲崎 民宿「善平」 0470(29)1274 「灯台下」バス停下車
その他、詳細については申込者に連絡いたします。

(連絡先 三木雄三)

お 知 ら せ

●千葉支部会員の移動報告

ご入会おめでとうございます。これからのご活躍をお祈りいたします。

新入会員

田代貴征 さん

青木次郎 さん

山本哲夫 さん

神山良雄 さん (転入会員)

新入会友

田代治子 さん

●会報のスケッチ画について

今回から会報一面のスケッチが変わりました。

スケッチご提供者は小菅(こすげ)一弘(かずひろ)さんです。

国内外のスケッチを学生時代より半世紀近く描かれており、山の絵もお好きな方です。

現在、バルビゾン絵画会OB会幹事ほかアトリエ・アゼリアの主宰をしております。

●原稿大募集！！

特集＝おすすめの正月の山

正月に登って楽しかった思い出深い山を、紀行文にしたためてお寄せ下さい。

初めての雪山での珍道中や彼女、彼氏と登った山、還暦祝いなど。なんでも結構です。

○400字原稿用紙1～2枚。写真やイラストの添付は随意

○原稿締切は2013年11月22日(金)必着。

送付先は広報委員会 三木雄三

後記

千葉支部初の海外遠征、台湾の雪山登頂が無事成功しました。

参加した皆さんが力を合わせ、富士山より高い3886メートルの頂上に全員到達する快挙を達成しました。

おいしい台湾料理と紹興酒を一杯食べて飲み、さらには中華民国山岳協会とも友好関係を深め、大変有意義な遠征でした。

今回から支部だよりの編集を広報委員会が担当することになりました。

まだまだ至りませんが、この会報を通して会員、会友の皆さんの絆を深めていくことが出来ればと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

そして、1～23号まで一人で担当されてきた結城会員の努力とご苦勞に改めて心から敬意を表します。

広報委員会 委員長 吉野聰

